

令和4年度 江東商業高等学校 年間授業計画（1学年用）

教科：（ 芸術 ） 科目：（ 書道Ⅰ ） 単位数：（ 2 単位 ） 対象：（ 第 1学年 C組～ 組）

教科担当者：（ A組： ）（ B組： ）（ C組： 齋藤 ）（ D組： ）（ E組： ）

使用教科書：（ 光村図書（書Ⅰ） ）

教科・科目の目標：

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点：

【知識・技能】：知	【思考・判断・表現】：思	【主体的に学習に取り組む態度】：主
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。 （用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する）	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができる。	授業内容に関心を持ち、積極的な姿勢での取り組み。古典臨書の理解力と実践・発展力、また創作作品制作時の発展的な想像力の充実が図れている。 適切な用具用材の取り扱い（準備、片付け等を含む）ができる。

単元項目	学習内容	表現			鑑賞	評価規準	評価の観点			配 当 時 数
		漢 仮	漢	仮			知	思	主	
◆書写から書道へ ◆臨書 ◆用具・用材、姿勢 ◆基本用筆	① 書道の三分野を確認し、臨書・鑑賞・創作の学習を通して、自己の創造的な表現に生かすことを理解する。 ② 臨書の方法、拓本に関する基礎的な知識を身につける。 ③ 教P.126「書写で学習したこと」を参照し、筆使い、字形、文字の大きさと配列など、小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。 ④ 基本的な用筆や運筆姿勢を確認する。		○			(知) 書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。 (主) 芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。	○	○	○	4
【漢字の書】 ◆楷書の古典『九成宮醜泉銘』	① 「孔子廟堂碑」建立の経緯や書 ① 「九成宮醜泉銘」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、欧陽詢の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ② 教P.34-35「九成宮醜泉銘」を鑑賞し、直線的で鋭い点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。 ③ 「学習のめあて」を理解し、点画の構成、背勢の構え、横画や転折などポイントを確認し、特徴的な点画を繰り返し書き、鋭く打ち直すような転折の用筆を習得する。 ④ ③で確認した用筆や字形を意識して臨書する。	○		○		(知) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 (知) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 (思) 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 (思) 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 (主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
◆楷書の古典『雁塔聖教序』	① 「雁塔聖教序」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、褚遂良の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ② 教P.38-39「雁塔聖教序」を鑑賞し、行書的な用筆による変化に富んだ点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。 ③ 「学習のめあて」を理解し、運筆や筆圧の変化、藏鋒、行書的な筆脈などポイントを確認し、特徴的な点画を繰り返し書き、藏鋒や抑揚を利かせた用筆を習得する。 ④ ③で確認した用筆や字形を意識して臨書する。		○		○	(知) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 (知) 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 (思) 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 (思) 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 (主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	5

1
学
期

	<p>◆楷書の古典『顔氏家廟碑』</p> <p>①「顔氏家廟碑」建立の経緯や書風、碑文の内容と大意、顔真卿の人物像や書道史における位置づけを理解する。</p> <p>② 教P.42-43「顔氏家廟碑」を鑑賞し、肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。</p> <p>③「学習のめあて」を理解し、力のかもった用筆、藏鋒、蚕頭燕尾、正方形で向勢の構えなどポイントを確認し、特徴的な点画を繰り返し書き、藏鋒や蚕頭燕尾の用筆を習得する。</p> <p>④ ③で確認した用筆や字形を意識して臨書する。</p>		○	○	<p>(知) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(思) 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		○	○	○	4
	<p>◆唐の四大家に学ぶ楷書の基本</p> <p>① 四つの古典から受ける全体的な印象、イメージ(風趣)を「鑑賞のための言葉」を参考にして言葉で表す。</p> <p>②「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」の「用筆」と「九成宮醴泉銘」「顔氏家廟碑」の「字形」を比較分析し、それぞれの特徴を書き留める。</p> <p>③ 鑑賞を通して気づいたことや、最初の印象との変化などについて</p>			○	<p>(知) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(思) 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		○	○	○	2
	<p>◆行書の古典『蘭亭序』</p> <p>① 行書の成立過程を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。</p> <p>② 卷末折込「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取る。</p> <p>③ 教P.56-58を参考にして、書道史における書聖・王羲之と「蘭亭序」の価値を理解し、その書風や文章の内容を理解する。</p> <p>④「学習のめあて」を理解し、抑揚を利かせた用筆、多様な字形などポイントを確認する。</p> <p>⑤ 筆脈と抑揚を意識して臨書す</p>		○	○	<p>(知) 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(思) 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		○	○	○	8
	<p>◆行書の古典『風信帖』</p> <p>① 空海の人物像や書道史における位置づけについて理解する。</p> <p>② 卷末折込「風信帖」を確認し、「風信帖」が書かれた経緯や書風、文章の内容と大意を理解する。</p> <p>③「学習のめあて」を理解し、重厚感のある用筆、安定した字形などポイントを確認し、「風信帖」の鑑賞・臨書を通して、用筆や字形などの特色を理解して臨書する。</p> <p>④ 連綿を習得する。</p>		○	○	<p>(知) 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(知) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。</p> <p>(思) 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		○	○	○	5
2 学期	<p>◆篆書の古典『泰山刻石』</p> <p>① 篆書の成立過程、「泰山刻石」が作られた経緯や書風について理解する。</p> <p>②「学習のめあて」「篆書の成立・特徴」を確認し、小篆の字形や線質、用筆の特徴を理解する。</p> <p>③「泰山刻石」を鑑賞・臨書し、小篆特有の縦長で左右相称の構えや水平・垂直を基本とする点画構成、均一な線の太さ、藏鋒、中鋒などの用筆の理解、習得をする。</p>		○	○	<p>(知) 篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(思) 篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 篆書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		○	○	○	4

◆ 隷書の古典『曹全碑』	<p>① 隷書の成立過程、「曹全碑」が作られた経緯や書風について理解する。</p> <p>② 「学習のめあて」「隷書の成立・特徴」を確認し、八分の字形や線質、用筆の特徴を理解する。</p> <p>③ 「曹全碑」を鑑賞・臨書し、八分特有の扁平な字形、藏鋒、中鋒などの用筆、また、波磔、転折、右払い、左払いなどの形と用筆の理解、習得をする。</p>	○	○	<p>(知) 隷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 隷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。</p> <p>(思) 隷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 隷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○ ○ ○	4
◆ 古典を生かした創作	<p>① 教P.72「創作の3ステップ」を確認し、創作の手順を理解する。</p> <p>② 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。</p> <p>③ これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。</p> <p>④ 試作を重ね、表現を工夫する。</p>	○	○	<p>(知) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。</p> <p>(思) 漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。</p> <p>(思) 漢字の古典や創作作品の価値とその根</p>	○ ○ ○	5
【仮名の書】 ◆ 仮名の成立と種類 ◆ 仮名の筆遣い ◆ 平仮名 ◆ 変体仮名	<p>① 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。</p> <p>② 仮名が、現在使われている一音一字の平仮名に統一された経緯を知り、平仮名と変体仮名の違いを理解する。</p> <p>③ 平仮名とは系統の異なる、片仮名の成立と字源について理解する。</p> <p>④ 横の線、縦の線、転折、円運動、結びなど、仮名の基本的な用筆・運筆を理解する。</p> <p>⑤ 基本的な筆使いを繰り返し練習し、仮名に特有の用筆・運筆を習得する。</p> <p>⑥ 平仮名の字源を知り、正確に字形を捉え、字形や筆使いを意識しながら臨書する。</p> <p>⑦ 平仮名と変体仮名を比較し、平</p>	○	○	<p>(知) 線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。</p> <p>(思) 仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○ ○ ○	7
◆ 連綿の法則 ◆ 仮名の古典『高野切第三種』	<p>① 教P.88-89「高野切第三種」を鑑賞し、伸びやかな線質や、流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。</p> <p>② 「高野切」の伝来と「第三種」の意味、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。</p> <p>③ 連綿にはさまざまな法則があることを理解し、臨書する部分を観察し、意連・形連のしかたや筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認、練習をする。</p> <p>④ 伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。</p>	○	○	<p>(知) 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形を生かした表現をするための技能を身につけている。</p> <p>(思) 仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>(思) 仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○ ○ ○	5
3 学 期 ◆ 構成を学ぶ 継色紙／寸松庵色紙／升色紙 散らし書き	<p>① 教P.96-98の「三色紙」を合わせて鑑賞することで、日本文化における「間」の美意識について理解する。</p> <p>② 「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」の伝来や、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。</p> <p>③ 「寸松庵色紙」と「升色紙」を比較し、紙面構成の特徴(文字群と余白の位置、字間・行間、文字の大きさ、線の太さの変化などの観点)を確かめ、その効果を理解する。</p>	○	○	<p>(知) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>(思) 仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○ ○ ○	2

<p>【漢字仮名交じりの書】 ◆漢字仮名交じりの書とは ◆好きな言葉を書こう</p>	<p>① 漢字仮名交じりの書の特徴を理解し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。</p> <p>② 作品鑑賞を通して、書かれている言葉に着目し、言葉表現するためにどのような表現の工夫が見られるか、書体や書風、紙面構成、用具・用材の観点を作品を鑑賞し、それぞれの表現のよさを味わうとともに、次時からの創作への見通しをもつ。</p> <p>③ 教P.112「創作の3ステップ」を確認して、創作の手順を理解する。</p> <p>④ 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。</p> <p>⑤ 古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。</p> <p>⑤ 試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。</p>	○	○	<p>(知) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>(知) 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。</p> <p>(思) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。</p> <p>(思) 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>(主) 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	6
---	---	---	---	--	---	---	---	---

合計	70
----	----